

高退協ニュース

高知高退協事務局
2010. 3.2
No.163
2010年
3月 2日

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内2丁目1-10
TEL 088-1822-1682
TEL 088-1822-11893
郵便振替口座 0165012111893

高教組より

今年になって変わったこと
米満敏孝
今年1月より、勤務時間が7時間45分となり15分短縮になりました。多くの職場では、年休用紙の書き方が変わっただけで、残業時間が15分増えただけというのが実態です。二〇一三年から実施される新学習指導要領（理数については「〇年」では、週あたりたりの授業時間数標準30時間の時間を超えることができることが明確化され、理科では必修科目の単位数が増加し、7時間目が増えることが懸念されます。労働時間短縮が実効あるものにしていくためには、私たち教職員自身が業務を見直していくことも必要ですが、教職員定数増などの教育条件整備

新年初歩き

今年はい
高知南嶺と芳原
自然と歴史の道へ

恒例の高退協と山の会共催の二〇一〇年初歩きが、一月六日に高知南嶺と旧春野町芳原にて行われ三六名が参加しました。
今年も、天気はやや寒かったものの快晴で、山歩きには上等の天気だったと言えるでしょう。午前十時過ぎ、要法寺西筆山登山口から石段を登り始め、皿ヶ嶺十時五十分着、鷲尾山に一二時三十分着。昼食後一時十分に出発し、烏帽子山に向かい、約一時間後に到着。このコースはかなりの急勾配で、二名が筋肉痛で、やむなくその後のコースをカットしました。残りの三十四名は烏帽子山とおおなる園の中ほどに位置する白

が不可欠です。

新政権のもとで文部科学省の対応が変わりました。全教で取り組んだ文部科学大臣あて5大重点要求はがき(30人以下学級を実現。高校授業料を公立、私立ともに無償化。就学援助制度を拡充。教員免許更新制の廃止。「全国学力・学習状況調査」(全国一斉学力テスト)の中止)を提出するときに、全教委員長、日高教委員長ら役員が、高井美德文部科学大臣政務官と会い、要請できたこと。最後に政務官は「情報・意見交換を継続実施したい」との姿勢を示したということです。20年近く取り組んできた「30000万署名」の成果として実現できた「公立高校の授業料無償化」とあわせて、今後の私たちの運動への確信となる「変わった」ことです。

土峠から春野芳原に向けて急勾配の坂道を下って行きました。ここがいわゆる白土往還と言われた街道で、昭和三十年ごろまで、春野地域から高知の城下町へ歩いて往復する人だにぎわったと言われるところ。今は道は荒れ果てていて、当日も歩きにくそうに全員が下って行きました。四時前には芳原の観音正寺観音堂に到着し、この高知県指定の有形文化財であるこの観音堂を散策して、初歩きのすべての日程を終了し、迎えに来たはるの湯の送迎バスに乗り込み、新年会の会場に向いました。

新年会は五時頃に開始。初歩きの参加者の内四名を除いて全員が参加しました。駆けつけてくれた三谷高退協会長からのいつものユーモアあふれる挨拶の後、山の会の上岡会長の音頭で乾杯し、約二時間とやかに歓談しました。

09年12月「高知市生活と健康を守る会」の総会で法テラス高知法律事務所の中島香織弁護士の講演があった。

日本司法支援センター(法テラス)は、06年に誕生、目的は、「あまねく全国において、民事・刑事を問わず法による紛争の解決に必要な情報やサービスを受ける社会を実現する(総合法律支援法)」。職務内容は、①国選(刑事)、法律扶助(民事) ②経済負

後期高齢者医療制度の廃止を求め、13県民学習会)

講師：田中きよむさん(高知女子大学教授・実行委員会世話人) テーマ：「社会保障制度の『再生』に向けての課題と方向」後期高齢者医療制度の即時廃止・老人医療無料化実現のために」
とき：二月十三日(土)午後一時
ところ：高知女子大学永国寺キャンパス203大講義室

戦後65年が経とうとしている。日本の「戦後史」を聞き、東アジアの文脈に位置づけたとき、その歴史は異なる様相をもって姿をあらわすことになるだろう。「戦後史」との対話。そして、その先にある社会を構想するため

【と き】2010年2月11日(木) 10:00~12:00
【ところ】人権啓発センター
【講師】道場親信(和光大学准教授)さん

訃報

竹内良雄さん
二〇〇九年十一月三〇日逝去
されました。
沢近章さん
二〇一〇年一月十六日逝去
されました。
謹んでお悔やみ申しあげます。

和田 担が困難②情報提供事業Ⅱ
高知 疎対策Ⅱ高知・安芸・須崎
法テラス高知は、(05
0・3383・5577)
火・木が、弁護士相談、水
が司法書士で、いずれも午
後である。日頃相談を受け
ている高退協で、困難な問
題が生じた場合。①収入・
家族構成②現金・預金額③
相談内容をメモして、予約
するとよい、面接相談のみ
で原則有料だが道はある。

高退協定期総会のご案内

とき 四月二十四日(土)
午後二時から
場所 高知城ホール
2F会議室にて

引き続き、
五時三十分より
「退職者をげまし
新加入者を祝う会」

高知城ホール四階ホール
会費 五〇〇〇円
体調を整えて、大いに飲み
語り合いましょ。

会費納入のお願い

2009年度分会費納入が
まだの方はお早めにお願
いします。

「相撲ミニ知識」

連載終了の挨拶

林 勤

一九九四年五月十六日「高退協ニユース六十八号」から九十一回連載させていただいた「相撲ミニ知識」を長くご愛読下さり有難うございました。

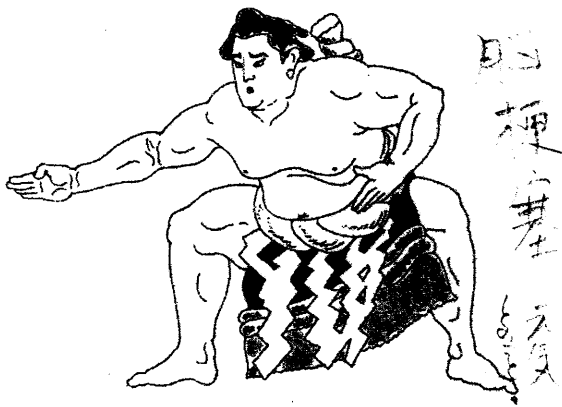
「思い出の名力士、思い出に残る大勝負・名勝負、相撲界の表裏裏……等々」書きたいことはまだまだ沢山ありますが、都合により今回を以てこの連載は一先ず終らせていただきます。

この原稿を書いている間にも、①朝青龍の暴行事件と引退、②四期八年ぶりに行われた相撲協会理事選挙で、若い貴乃花親方が大方の予想に反して当選、③大相撲における日本人力士の不振―初場所番付幕内力士42人中日本人役力士は僅かに四人・老齢大関以外で三役に二場所続けて定着している若手力士がいないと問題山積の大相撲界の現状とこれからを、相撲をこよなく愛する者として憂えずにはいられません。

又何かの形で紙上でお会いする機会がございましたら、その節はよろしくお願いたします。本当に有難うございました。

私こと、

平成21年11月2日「もみのき病院」へ入院。11月16日「すこやかな杜」(春野・芳原)へ転院。現在リハビリに励んでいます。



林勤さんには、一六年度の長きにわたり「相撲ミニ知識」の連載をいただき、誠にありがとうございました。相撲好きの会員を代表して、高退協編集委員会よりお礼を申し上げます。

初月農園だより

堆肥編 島本 聡

ビルゲイツの開発した windows95 が発売され、パソコンをもたない人もその行列に並んだ1995年夏、私はガーベラやトマトを出荷し地区一番と評判の高い農家nさんを訪ねた。1棟1千万円ほどのハウスはスリッパで入らなければならぬかと思うほど管理されている。

s 「今日は、雑草がないのは、どうして？」

n 「小さいときに取ればいけないぞ、火事も大きくなったら消せんろうが」

s 「トマトの水はどれぐらいやるが？」

n 「口でゆうたちわからん、毎朝6時頃から、水やりしゆうきに見に来い」

s 「肥料はいつどれぐらいやるが？」

n 「そうやね おんしややったら、8・8・8をやったら安全じゃや」

s 「8・8・8って？」

n 「窒素、リン酸、カリの比率のことよ」

s 「甘いトマトを作りたいけど」

n 「桃太郎はやめちよけ、あれは皮がかたいだけで美味しゆうないぞ。そうそう EM 堆肥をつこうてみいや、おいしゆうなるぞ。」

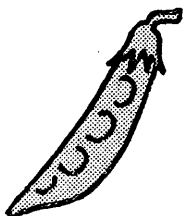
s 「EMって？」

n 「馬鹿、お前も教師ならもっと勉強せんか」

でました。うるさい生徒にたいする殺し文句が。私は、EMなる英語2文字を頭に叩き込み早々に退散。EMとは？パソコンをはじめた当時マニュアルにかいてあるSE、FD、HD、とつ

ぎつぎにでてくるパソコン用語に悩まされたことを思い出しながらEMをさがした。もちろん英和辞書にはなかった。いくつか本屋を回っているうちやと「EMで生ゴミを活かす」表題の厚い本を見つけた。EMとは Effective (有用) Micro-organisms(微生物)の頭文字の組み合わせで、EM開発者・比嘉照夫博士の造語であった。

すみません今回は トマト、カボチャ、枝豆、ズッキーニなどの種まきが急がれすのでこれにて、失礼します。



沖縄の旅

橋元陽一

昨年一二月二六日から四日間、県教組女性部の沖縄平和の旅に参加した。普天間基地問題の真ただ中でもあり、また名護市長選直前で緊迫した中、南部戦跡の潮江権現塚、ひめゆりの塔、平和の礎、魂魄、米須海岸、そして嘉数高台から遠望した普天間基地、辺野古テント、キャンプハンセン、安保の見える丘、砂辺地区などを歩いた。案内していただいた大島さん(〇九県母親大会講師)の緻密でエネルギッシュな説明のおかげで、琉球王国時代から、沖縄戦、そして基地問題を一貫して捉え学ぶことができた。「普天間の移設条件として辺野古基地建設がある」基地の存在で生活が成り立っている沖縄の人もある「などの本土メディアから流される情報で、ものごとを見ては駄目だと改めて思い知らされた。そして米国に従属した日本政府により米軍基地と化したまま近代化して

(辺野古にて)



きた沖縄で、今、生きている沖縄の人々の生き様の一部を、自らの眼と耳で確かめることができたと思っている。

眼に入ってくるもの、耳に聞こえてくるものを受け止めるだけで時間が過ぎた。大島さんから「ひめゆりの資料館では、女学生の写真と向き合い、語り合ってきた欲しい」と言われた。四、五名の写真の前に立ち、「このような姿になつて私の怒り、無念さがわかりますか」「私と同じ犠牲者を出さないために、今、あなたは何をしていますか」と問われて、何も応えることができない自分が情けなかった。

美ら海の辺野古海岸のテントで、二〇八〇日間のちをかけて続けている基地建設反対闘争の先頭に立つ平良悦美さんが穏やかな表情で「私たちは弱い。その弱さを武器に非暴力でたかひに挑む。基地建設を許したら、人の命を奪うことを認めることになる。だから絶対に許すことができない。」と、語られるやさしい眼差しに、真に人間らしく生きる生き様と誇りを感じた。

沖縄に先立ち、一九五三年一二月二五日に返還された奄美群島は母のふるさとです。当時アメリカから「日本政府へのクリスマスプレゼント」と皮肉られて返還されている。なぜ日本はいつまでもアメリカに従属したままなのか。眼に見えぬことや耳に聞こえないこと、耳に聞こえてこないことを追求していきいたいなど、密かに決意する旅となった。名護市長選も平和への希望を拓きました。フウチャンプルも三線を聴きながらの泡盛も美味しかった。ぜひ高退協で企画してまた沖縄に行きたい。

短歌

お城の石垣成る

神原忠彦
十三夜小望の月と円く満ち月蝕に明けし元旦は十五夜

五年越し石垣成りし三の丸思ひ出あちこち踏みゆき眺む

三の丸へ杖つく石段メーデー後
プラカードかつぎ「わっしょよ」と上りし
日々の暮らし

山本晶子
五百円にて買ひし手袋皮なれば二十年使うまだまだ丈夫
いただきし四百ページの本文読んで
札状書けばほっと安らぐ

鍋料理「おいしかった」と夫言いて今日一日がぱっと明るむ

低温火傷

叶岡淑子
年明けの熟睡の夜の「貼るカイロ」わたしの膝を奥深く焼く
恐るべし低温火傷 一が月の普通の暮らしを痛みが奪う

うかつさと老い悟る日々身に沁むはヒトのからだと膝というものの
「お詫びと訂正」

前号の「短歌」で山本晶子さんの「吾が生に・・・」となつて

いたのは、正しくは「吾が生に・・・」でしたので、お詫びして訂正いたします。

俳句

十一月二十一日十曜

長浜若宮八幡宮、桂浜

合田青幹
大冬日指す日時計の十一時
凧や馬場八丁を吹き抜ける

吉本伸秋

おほわたひや
大綿の日矢に一閃放ちけり

こま
猫の眼の睨いて来るなり

神の留守

世界で初めてのメーデーは
一九二〇年五月一日です。
ヨーロッパの社会主義運動の指導者たちが前年に作られた「第二インターナショナル」の結成大会で、アメリカの労働者のたたかいに呼応して、「法律で労働日を八時間に短縮するよう、すべての国で一定の日に国家当局に要求する」「一九二〇年五月一日を国際的デモンストレーションの日とする」という決議にもとづき、世界で初めてメーデーがおこなわれました。

和 田 明 第81回メーデー

日本で初めてのメーデーは一九二〇年五月二日、上野公園でひらかれました。「団結」を呼びかけただけでも逮捕・投獄される「治安警察法」のもとで、五〇〇〇人の労働者が集まり、デモ行進した。当時の人たちは、「腰に弁当と水筒、足にゲートルを巻いて」警察官に逮捕されるのを覚悟で参加しました。
今日、労働組合数は一三年連続減少、組織率も18・1%と最低。メーデーに参加し、ビールで、労働者を励ませよう。

中内英明

神木の高きを搦め萬紅葉
冬海の彼方の何へ龍馬の目

中内みち代

いつ来ても旅人冬の龍馬像
音たてて降り音もなく降る落葉

小笠原さちを

小春風寄せては返し砂を研ぐ
すがれゆくものを囲める

馬防柵

十二月十九日 土曜

高知城周辺

合田青幹

庇影映る障子の白さかな
大いなる句碑へ冬日の柔らかし

吉本伸秋

冬空へ出角一直線の反り
照り返す障子明りや黄花草麻

中内英明

初雪の昼までもためほどの白
逆光の水尾きらめかせ緋鳥鳴

中内みち代

一門を育てし句碑に年惜しむ
ぱんと張る障子明かりの寅彦君

小笠原さちを

つぎつぎと木の葉彩る
濠は面布

便りせむ多羅葉の実の
熱れしこと

一月十六日 土曜

高知市長浜 雪溪寺 桂浜

合田青幹

松嶺を従へ寒の龍馬像
南字の興りし寺や寒椿

吉本伸秋

寒梅や若武者眠る塔一基
鳥礫こぼさじと張る大冬木

中内英明

落椿あれば仰ぎて椿径
離岸堤工事三寒四温かな

中内みち代

漁舟置きたる如き寒の風
冬天に磨かれ響ゆ龍馬像

小笠原さちを

待春の遍路笠売る小商ひ
借景は夜討ちが谷の冬木立

俳句

梅檀の抄⑥

小澤 幸泉

テレビ相談どこか納得
南窓開けて希望の

さかす街
かすむ眼に明日の景色
それがどでない人生に

しがみつ
口だけは曲がっていない
義母の意地

寒い朝
寄り添うて二人が歩む
お便り帳涙を詰めて

持ち帰り
シャンソンのああ街角の
夢の灯よ

連れにゆく
年金を貯めて思い出
破られた愛の便りを

握りしめ

【主な活動と参加】

十一月

三日 第七回事務局会議(高退協ニュース十一月号発送)

四日 二〇〇九年高退協親睦旅行(五日)

七日 県教育研究集会

十六日 全退教第十八回四国ブロック交流集会(十七日)

十二月

三日 第八回事務局会議

高退協二〇〇九年望年会・作品展

五日 12.5平和のつどい

後期高齢者医療制度のすみやかな廃止を

求める昼休み集会

二十四日 高退協ニュース新年号・機関誌こつたいききょう第三〇号「発送

二月

六日 新年初歩き 高退協山の会共催

二十九日 普天間基地の即時返還 新基地建設・自衛隊の歓迎行事反対県民集会

十一月 「建国記念の日」に反対するつどい

十二月 県高退連幹事会

後期高齢者医療制度廃止学習講演会

お詫びと訂正

本年一月発行の「こつたいききょう」第三十号の六十二ページの竹本長生さんの俳句の中で、「人並みの・・・」となつていたのは「人波の・・・」であり、

「男佳く鳥毛ひねるよ秋祭」は「男佳く鳥毛ひねるよ秋葉祭」であり、

「還幸の長蛇賜はり秋葉まつり」は

「還幸の長蛇賜はり秋葉祭」の間違ひでした。

また、七十八ページ下段福原云外書表現の魅力(追悼)八行目「精神主義的表現はなく・・・」は「精神主義的表現でもなく・・・」でした。お詫びして訂正

します。

蔵王

スキー報告

溝淵乃婦

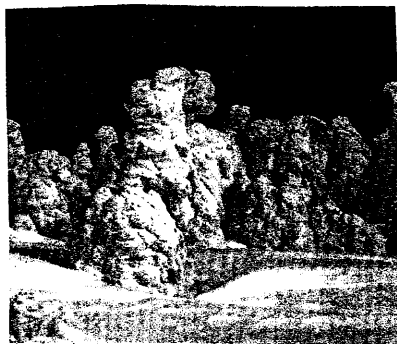
高退協スキークラブは2月7日、10日山形蔵王で、第9回研修会を行いました。それを(むかこ)が報告します。山形のことを、和歌山言ったり、岡山言ったりする人・リフト券を航空券用の紙で引き換えに行った人も入れて、59歳〜79歳、女5・男6、11名の参加でした。

7日は、伊丹経由で仙台空港へ。バスで着いた蔵王は曇。3時前にホテル。直ぐに更衣。先ずはグレンデ点検。今シーズン初めての人もいて回数券で足慣らし。しつかり調子を確かめました。

8日は、ないことピーカンのスキー日和。地蔵山頂上の樹氷のなんと美しかった事。ロープウェイはたくさんの方の観光客と相乗りでした。スキーヤーの私たちは、一日たつぷり、カービングターンの研修に励みました。



9日は、朝から雨まじり。「いかんいかん、行くぜえ! なんちゃあ、上で珈琲飲んだらえいやいか」元SSスキースクール専属インストラクターの一喝でスタート。トガスをツンザき左へ右へト「この悪雪を、みんなあ上手に滑ったわ!」と褒めてもらいながら、この日もたつぷり。一日中ガスっていたせいではないと思いますが、昼食を済まして、「さあ行こ!」と例のSS氏、チヨミさんの赤いウェアを着て颯爽!「違う違う!他人のを着いちゆう!」と言われ、「おんなじ赤やき・」やと!



10日は、小雪。帰りのバスが出るまで滑った人4名。研修会の楽しみは、温泉と夕食、楽しいお話です。

初日の夜は酸気のお湯で人生の疲れを癒し、蔵王牛の陶板焼き・いも煮・ギボウシの酢味噌・あけびの皮の煮いたが、など郷土料理を美味しくいただきましたながら、話の方は「インプラント」で盛り上がる。体験談・名医の紹介・途中初心者?には「とは、何ぞや」の説明もあり、身近かな問題だけにみんな真剣。その時私に、「あんたは、ノッてこんけど歯はええが?」と、いきとどいた教育が来た。「イヤア、まあ私は自分の歯で...。けど最近お金もかかると聞いて、前の倍ばあよう歯を磨きゆう。」それを聞いていたM先輩がすかさず、「わしらアまだ丁寧には、はずしてまで磨きゆうぜヨ!」これにて一件落着。尚、二日目・三日目の話は「裸・お風呂」でしたので、ちよつと文字にはできません。ごめんなさい。ではまた来年! 第10回研修会が楽しみです。

初詣あれこれ

新しい年を迎え、恒例の初詣に出掛けた。

一日は近隣の神社を巡った。王子、愛宕、轟、薬の四社である。愛宕山の境内より元旦の日の出を拝す。帰宅後おとそを頂く。

二日は近所の友人と七つ淵の表敬に出掛ける。小学生の時代より数十回訪れている。七時出発。三谷までは「へんろ道」、松尾城跡からは車道を椎野峠へ。谷合の集落からは山道を辿って神社奥社へ。歩く参拝客は少ない。記帖を済まして帰路につく。望六峠の茶屋で期待していたソバは中止になってしまった。残念至極。お茶をご馳走になって、下山

三十五の思い出 其の三
飛鳥山原寺

松山 和雄

ひなびた明日香の集落を過ぎると道は飛鳥川を渡る。河原石の間から黄色い菜の花がのびて華やかだ。橋から先は、一本道がまっすぐにのびている。左の丘の中腹あたりに「橋寺」がある。寺の低い生垣越しに北に目をやると、早春の「日本の農村」の風景が広がっている。

遠くにかすんで見える大和の山なみ、うっすらとしたその稜線で天と地の境がようやく分かる。目を手前にやれば、あちらこちらにこんもりと緑の森が見られ、まださび色の田圃では農家の人々が一樣に白い手ぬぐいの「ほっかぶり」した姿でゆったりと作業をしている。野焼きの煙は地を覆うようにふっくらと大きくなっていく。なんとどのかな風景だろう。

「川原寺址」はそんな日本の原風景にすっかり溶け込んで眼下にあった。建築史の教科書に載っている仏寺の初期伽藍様式、「飛鳥寺址」、「四天王寺」、「法隆寺」、「薬師寺」、「東大寺」はすでにカメラに納めている。唯一「川原寺」が欠けていた。わが国独自と言われている法隆寺様式(塔と金堂が南に面して並列している)の原型と伝

えられているこの寺は、たとえ伽藍を見ることができなくてもぜひ訪ねてみたかった。その寺址が今まさに眼下にある。

田圃の中を一直線に走る道路の反対側に礎石や基壇がはつきりと見て取れる。道路脇には公衆トイレもあり、周辺はかなり整備されているようだ。早速シャッターを切った。全体像を写し、道路を渡った。まず、南大門の址に立ってみた。丘の上から見たよりもずいぶんスケールが大きい。目の前には中門の址、右に目をやるとその高さから塔址がはつきりと分かる基壇が見え、正面奥には小さなお堂が、さらに左に目を移すとまだ枯れ草の衣をまとった金堂址の盛り土や、巨大な礎石の配置から往時の伽藍配置の様子が良く分かる。興奮気味に、右に左に立つ位置を変えてカメラをかまえた。

大官大寺や飛鳥寺と並んで飛鳥の三大寺といわれながら、平城遷都のおり、なぜかこの寺だけはなぜか都に移されず、後年の火災による消失以降は再建されることもなかったという。

のどかな日本の田園の真只中に、鮮やかな朱色の回廊で囲まれた堂塔の偉容。丹青も鮮やかな巨大伽藍、そんな姿を菜の花咲くこの季節になると想い描く。

にかかる。途中で嘉助道から分かれて竹林の中の間道を伏尾の谷に降りる。あとは車道。MS団地を抜けて帰宅。

三日は安田の二十七番札所神峰寺へ。八時、マイカーで出発。国道五五号線沿いの無

秦東寺 戌月日記
坪井幹之

料駐車場まで一走り。ここから札所の寺まで車で登ることが出来るが、わずか三・三キロの道程であるので歩くことにした。遍路道の整備が進んで昔とは様変わり、車の往来が多い。解説書には「勾配四

十五度の急坂で知られた土佐の関所」とある。何度か歩いたが、若かりし頃の経験でさほど苦しかった思いは残っていない。ほどなく山門に到着。本堂と太子堂に参拝。背後に聳える山塊上にある展望台に向かう。新装なった車道を登る。頭上近くに公園があったように記憶していたが、新道は遠かった。やつの思いで登る。見事な眺望である。新春の太平洋を背景に芸東一帯の景色が広がっていた。

以上、今年の初詣である。昨年までは日和佐の二十三番薬王寺参りを続けていたが寄る年波には勝てない、と二十三番札所等に変更した次第。